

第 46 回東京都環境審議会における質問への回答

審議会当日にいただいた御質問に、以下、御回答いたします。
この他、委員の皆様からいただいた御意見を踏まえて、今後の環境施策に生かしてまいります。

質問内容	回答
スマートエネルギー都市の実現	
<p>【① 家庭部門のCO2削減について】 家庭でも大人数と単身世帯とでは行動に対する取組の仕方が全く違う。単身世帯が多い都はそういったところの対策が不十分なために、家庭部門で減らないのだと思う。 実際のデータ（どういった家庭でどの程度使っているか等）の裏付けをもって施策を講じてほしい。 都ではどのようなデータ分析が行われているのか。</p>	<p>都では毎年、都内の温室効果ガス排出量等の調査を行っており、この中で、家庭部門における単身、複数世帯の伸びや家電製品の保有率等の把握を行っています。 こうしたデータを踏まえ、現在は、地域家電店と連携して、LED電球の交換と省エネアドバイスを通じた家庭での省エネムーブメントの創出に取り組んでいます。 また、窓の断熱性能の向上のための支援を講じるとともに、行動科学の手法を取り入れた効果的な省エネ施策の検討を予定しています。</p>
自然豊かで多様な生きものと共生できる都市環境	
<p>【② 生態系に配慮した緑化評価ツールについて】 「生態系に配慮した緑化評価ツール（試行版）」の「課題」は、普及啓発についてよくわかりにくいということだと思うが、具体的にどういう点がわかりにくいのか。 おそらく、生態系への配慮というのが抽象的なので、これをいかに分かりやすく都民に伝えるのが課題ではないかと思っている。</p>	<p>「生態系に配慮した緑化評価ツール（試行版）」は、平成 29 年 3 月の公表後、一部の事業者から植物群落の言葉に馴染みがなく分かりづらいなどの意見が寄せられております。今後、こうした点も踏まえ、分かりやすく伝えるよう努めていきます。</p>

<p>【③ 農薬による生態系のかく乱について】</p> <p>農薬などの化学物質による生態系のかく乱が重要な課題だと思ふ。特に懸念しているのは、最近よく使われるようになったネオニコチノイド系農薬である。この農薬は訪花性昆虫を激減させてしまうので、こういった農薬の使用削減を進めていく必要があると思ふ。この点について取組を教えてほしい。</p>	<p>ネオニコチノイド系農薬は、農林水産大臣登録を受けた農薬で安全性も確認されていますが、稲作における農薬の使用がミツバチに影響を及ぼすといわれております。このため、国のミツバチ被害軽減対策の動向を踏まえ、東京都としても、ミツバチが飛来する可能性のある時期には農薬を散布しないこと等をJAや農業指導機関に注意喚起するとともに、農薬使用者向けのリーフレットを作成し周知しています。</p> <p>また、平成25年4月の農林水産省と環境省による通知（「住宅地等における農薬使用について」）では、住宅地近傍において、人畜、環境への影響を最小限とするため、無風の時に散布するなどの具体的事項が記載されています。東京都では、住宅地での環境保全を目的として、この通知に基づき、農薬使用者や農薬が使用される敷地の管理者に対して、法や通知を遵守するよう指導しています。</p>
<p>【④ 計画的な間伐・枝打ちについて】</p> <p>森林再生事業について、面積等が示されているが、面積だけでなく、土地と空間を対応させた考えが求められるのではないかと。「計画的な間伐・枝打ち」の「計画」の中に、数値計画だけでなく空間計画が含まれているのかどうか。</p> <p>森林整備を面積だけで捉えるのではなく、どこの森林をどう優先的に整備するかが重要だと思ふが、空間と対応した計画を持っているのか教えてほしい。</p>	<p>森林再生事業として「間伐・枝打ち」を実施しておりますが、「間伐・枝打ち」の実施に当たっては、森林所有者との合意が前提であり、森林所有者との協議を進めながら、実施区域を決定しています。</p>
<p>【⑤ 野生生物の適正管理について】</p> <p>鹿の駆除などに、猟友会の活動を活発化し、市民を募るなど、市民を巻き込む工夫があってもよい。現状を教えてほしい。</p>	<p>東京都では、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」などに基づき野生生物に関する計画を策定するとともに、ニホンジカの捕獲に当たっては、市町村が地元猟友会と連携を図りながら実施しています。</p>

快適な大気環境、良質な土壌と水循環の確保

【⑥ 光化学スモッグ注意報について】

発令日数をゼロにするために、VOCをどのくらい削減すればいいかという数値を把握しているか。また、それを具体的にどのような割合で減らしていくのか。

光化学オキシダント濃度を低減するためにはVOCなど原因物質の排出量の削減が重要と考えていますが、移流や二次生成に関する発生メカニズムは複雑で未解明な部分もあります。

原因物質の排出削減に取り組むとともに、原因物質の排出削減量や発生メカニズムを踏まえたPM2.5・光化学オキシダントの効果的な削減対策について、今年度から専門家により検討会において、移流や二次生成に関する発生メカニズムの解明を進め、さらなる対策につなげていきます。

【⑦ 化学物質適正管理制度について】

資料2 No.35の「課題」に関して、「環境面・経済面・社会面にバランスよく配慮した」という書き方が可能ではないか。

下記の通り資料2を修正します。

目標	主な取組	主な課題等
化学物質の環境への排出量を更に低減する。	<p>●化学物質適正管理制度</p> <p>事業所から環境中に排出された化学物質の量や管理方法等の報告を求めることで、自主的な排出抑制を図るとともに適正な管理を求める制度</p> <p>・2015年度実績 2,539トン(対2014年度△14%)</p>	一律の対策で排出削減が進んできているものの、 <u>経済・社会状況を踏まえ、更に</u> 環境への排出を減らすことが課題